

◆活動団体

団体名：

連絡先：

(TEL

メール

)

◆活動内容

萩市では、街道を活用したまちづくりと観光誘客、そしてウォーキングを通じた心と体の健康づくりを中心に各種団体がそれぞれ特色ある取り組みを行っています。

萩往還工芸まつり 「技・明木展」

〔開催日〕 5月3日・4日

第21回目を迎えての開催となり、両日ともに晴天に恵まれて、萩往還の明木市は、多くの来場者で、往時の賑わいをおもわせる盛況ぶりとなった。

〔開催場所〕 萩市大字明木（明木市）

〔入込客数〕 10,000人（2024）

「技・明木展」は、石州赤瓦屋根が連なる風景と萩焼作家の定住による萩焼などの地域資源を生かし、県内外の伝統工芸品などと結びつけて、往時の賑わいを再現し、地域の人々が出展者や来場者と交流する中から地域の魅力を引き出し次世代につなげようとおもいで開催しています。

〔主な内容〕

県内外の伝統工芸品等の展示販売（陶器、大内塗、ガラス、木工、染物等）、体験コーナー、地元産品の販売、飲食コーナー、オカリナ演奏、エイサー踊り、フラダンスなど



R6年度

萩往還ワンデーウォーク2025

〔開催日〕 3月20日

〔開催場所〕 佐々並～明木～萩

〔参加者数〕 738人

（佐々並コース468人、明木コース270人）

かつての参勤交代の御成道（おなりみち）として整備され、吉田松陰や高杉晋作など維新の志士が往来した歴史の道、国の史跡にも指定されている萩往還を季節の風や木々の香りを感じながら歩きます。

○佐々並コース【17.3km】

国の重要伝統的建造物群保存地区の「佐々並市」を通り、標高差約300mの「一升谷」と呼ばれる坂道を歩きます。ここには、400年もの風雪を耐え忍んだ石畳がいまも残り、当時の往還の面影を最もよく残しています。



○明木コース 【 8. 3 km】

藩主一行がかごを下ろして休んだ「悴坂（かせがさか）駕籠建場跡」、萩の城下を見ることが
できる最後の場所「涙松跡」といった史跡を通ります。

～秋のささなみまちじゅうまつり～ 「小学生によるまちなみ定点ガイド」

〔開催日〕 11月17日（日）

令和4年11月に第1回開催、今年度第3回目の実施

〔開催場所〕 萩市大字佐々並《重伝建地区内（萩往還活用）》

〔定点ガイド聴講者数〕 58人（2023）

地域の祭り“秋のささなみまちじゅうまつり”で佐々並小学校の児童による「まちなみ定点ガイド」を行い、佐々並の「伝統的建造物保存地区」の紹介をしました。郷土を愛する心を育み、自分の言葉でふるさと自慢を語ろうと萩往還沿いの重伝建地区の建造物や歴史、慣習などをわかりやすくガイドしました。定点ガイドの説明場所、内容、説明資料も自分たちで作成しました。クイズも用意して、参加者とコミュニケーションを取っている様子は、笑顔があふれていました。

〔主な内容〕

佐々並小学校の3年生から6年生の児童10名が6か所に分かれて、重伝建地区の歴史や伝統、特徴など地域のお宝を自分たちで調べ、自分の言葉で語り表現します。

